

全国高等学校PTA連合会大分大会 参加報告

8月20日・21日の2日間にわたり、大分県別府市および大分市において「全国高等学校PTA連合会 大分大会」が開催されました。本校PTAからは大山会長と鈴木副会長が参加し、全体会ならびに各分科会での研修や他校PTAとの意見交換に臨みました。全国から集まった多くの会員とともに、今後のPTA活動や生徒支援のあり方について非常に有意義な協議を重ねることができました。

参加された大山会長と鈴木副会長より、当日の様子や研修の成果についてご寄稿いただきました。



全国高P連大分大会に参加して

PTA会長 大山 剛

令和8年8月20日、21日の二日間にわたり、おんせん県大分で開催された「第75回全国高等学校PTA連合大会」に、本校の役員・先生方と共に参加いたしました。

全国から6,000人を超えるPTA関係者が集い、会場となった別府市・大分市は、夏の暑さに負けない熱気に包まれていました。大会テーマである「湯ごころ真ごころ親ごころ～輝く未来を切り開け～」の通り、大分の方々の温かい「おもてなし」の心に触れながら、大変有意義な学びの時間を過ごすことができました。

初日に行われた分科会では、私は第一分科会の「PTAの役割と未来」に参加しました。保護者の多忙化や価値観の多様化が進む現代において、これからのPTAがどうあるべきかという深刻な課題について考えさせられました。講演の中で特に心に残ったのは、「やらなければならない



ワークショップの様子

PTAから「やりたいPTA」へ転換していくという言葉です。前例を踏襲することだけを目的にするのではなく、「すべての生徒のために、今の私たちに何ができるか」を柔軟に見直していくことの大切さを痛感しました。他県の参加者とのワークショップでも活発な意見交換が行われ、それぞれの学校が模索しながらも、子どもたちのために知恵を絞っている姿に大きな刺激を受けました。

二日目は、内川誠一氏による記念講演「夢が導く諦めない気持ち」を通じて、挑戦の重要性や親としての子供への関わり方を学びました。

二日間にわたる本大会での学びや交流は大きな財産となり、今後はこれらをPTA活動に活かして、より魅力的な学校づくりに貢献していきたいと思えます。運営に関われた皆様に深く感謝申し上げます。

来年度は東京都で「つながりあう力」をテーマに開催されます。希望に満ちた輝く未来を切り開く為に、東京大会の成功を祈念いたしまして報告とさせていただきます。

全国高等学校 PTA 連合会大会 参加報告

副会長 鈴木明子

8月20日・21日に大分県で開催された全国高等学校 PTA 連合会大会に参加しました。私は、立命館アジア太平洋大学で開催された第3分科会に参加しました。

分科会のテーマは「ダイバーシティの力ー多様性の中ではぐくむ地域・人材・未来ー」であり、演題は「グローバル時代のサステナブルな都市づくりー将来世代の参加による多文化共生を目指してー」でした。

講演では、将来的に日本の人口は31%減少し、10人に1人が外国人となる社会が見込まれていることが示され、そのような時代においては、日本国内だけでなく、世界の国々が互いに補い合う循環的なパートナーシップを築いていくことが必要になるとのお話がありました。

特に印象に残ったのは、「人と人は、分かり合えないことを前提にする」という考え方です。これは、互いに理解し合うことを諦めるという意味ではありません。むしろ、文化や価値観、生活習慣の違いに前向きに向き合い、対話を重ねていくための出発点であると受け止めました。



人との間に起こるトラブルの多くは、価値観や文化、生活習慣などの「前提の違い」から生まれます。自分にとっての「当たり前」が、他の人にとっても当たり前とは限りません。これからは、「当たり前が当たり前ではない」環境を、当たり前のものとして受け止めていく姿勢が、より一層求められます。

また、多文化共生は国籍や言語の違いだけに関わるものではありません。年齢、性別、障がいの有無、家庭環境、考え方や経験の違いなど、私たちの身近な生活の中にも多様性があります。多文化共生とは、皆が同じになることではなく、違

いがあることを前提に、日々の暮らしの中で対話と理解を少しずつ重ねていくことだと学びました。

講演では、「きっと分かり合えるはず」と考えると、分かり合えない部分に目が向きやすく、減点法になりがちであるというお話もありました。一方で、「この部分では分かり合えた」と捉えることは加点法につながります。小さな理解や交流を積み重ねていくことが、共生の土台になるのではないかと考えます。

多様性への対応は、特別な誰かのためだけに行うものではありません。誰もが安心し、気持ちよく暮らせる地域や学校をつくるための取組であり、地域の価値や新たな可能性を生み出すことにもつながります。

日常の中で交流し、対話し、ときには摩擦も経験しながら、新しい価値を共につくっていく。その過程を大切にすることが、これからの地域や学校に必要です。

今回の分科会を通して、最も心に残った言葉は「ちがいという共通点」です。これからもこの言葉を大切にしながら、子育てや PTA 活動に取り組んでいきたいと思います。



大山会長、鈴木副会長におかれましては、お忙しいなか全国大会にご参加いただき、また大変貴重なご報告、誠にありがとうございました。

次年度の全国高等学校 PTA 連合会大会は、東京都にて開催される予定です。会員の皆様におかれましても、こうした全国規模での取り組みや PTA 活動の広がりについて、ぜひ関心を持っていただけますと幸いです。

今後とも本校 PTA 活動へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

